

国語 (九枚の内 その一)

受験番号

一 次の文章を読み、後の問に答えてください。

1月17日に執筆の番がまわってきたのも、A巡り合わせというものだろう。阪神・淡路大震災から、ちょうど31年が経(た)った。

私は神戸市の出身だが、大学進学に際して上京し、震災当時はすでに東京で就職していた。当日の早朝、現地の友人からぶじを知らせる電話で起こされ、テレビに映る光景を見て呆然(ぼうぜん)としたのを今でも覚えている。横倒しになった高速道路がとくに衝撃的で、Bことの重大さが即座に伝わってきた。

実家は神戸市の中心部たる三宮から西に約1キロ、中華街にほど近い繁華街である。さいわい家族に怪我(けが)人はなかったものの、①高齢の祖父母宅は②半壊の状態だった。私は3日目に神戸入りしたが、電車は途中までしか通じておらず、ペットボトル1ダース分の水や食料を背負って十数キロを歩き、辿(たど)り着く。できるかぎり家を片づけ、家族は三重の親類宅に身を寄せてもらうことにした。

このときの体験をもとに書いたのが、「冬と瓦礫(がれき)」という作品。ふだん歴史・時代小説を書いている私にとっては唯一の現代ものである。原型はデビュー以前に執筆していたが、それからほぼ15年のち、震災30年を目前とした時期に刊行した。

震災を扱った物語というと被災者視点で書かれたものを思い浮かべがちだが、※拙作の場合はそうした成り立ちだから、東京で暮らしていた主人公が故郷・神戸の被災を聞いて駆けつけ、さまざまな現実面に直面する。変容した故郷への哀惜だけでなく、地元でそれを体験した人々との分断も生じてしまうのである。いわば、C通常の震災報道では取り上げられない立場の者を描いた。

大切なひとを亡くしたり、家を失ったりした方の悲しみはむろん大きなものだが、Dそうでない者も、やはり何かを喪失している。じぶんがそういう立場だからこそ気づいたことながら、そろそろそうしたところにも目を向けていいのではないかと思えた。この視点を提示するのに30年という歳月が必要だったように感じている。結果としてE時宜を得た出版になったのではないだろうか。

発売前から大きな③反響を得、本紙もふくめて多くの取材を受けた。それでもF一般読者、とくに震災を体験した方々にどう受け入れられるかは未知数で、Gもあつたことを告白しておく。

それが「杞憂(きゆう)」だったとまではいわないが、刊行後ほどなく、兵庫県書店商業組合に依頼され、神戸で講演をおこなった。主催者も聴衆も地元の方々だから緊張もあつたが、当日は想像以上にあたたかい空気で迎えていただき、Hしたものである。

④主催側からは、この震災を語り継いでゆくという、つよい決意を感じた。

これと前後して、読者からお手紙をいただいた。福井県⑤在住の女性で、

国語 (九枚の内 その二)

受験番号

「能登地震で実家は半壊になったものの父母はぶじ、もっとひどい状態の方がおられるので、気もちをあらわすことができなかつたが、『冬と瓦礫』を読んで、「じぶんも悲しんでいいのだ」と思えた」
というようなことが記されていた。

この手紙を受け取った私のほうにこそ深い感慨があつたことは想像していただけるだろう。ここに、はっきり届いた相手がいると思えた。ためらいもあつたが、作品を世に出してよかつたと心の底から感じたのである。

※拙作 「自分の作品」をへりくだって言う語

(砂原浩太朗 「31年目の震災」 日本経済新聞 電子版 2026年1月17日)

問一 傍線部①～⑤の漢字の読みを記してください。

①
②
③
④
⑤

問二 傍線部A「巡り合わせ」とあるが、作者にとってどのような巡り合わせであつたのか、述べてください。

--

問三 傍線部B「この重大さが即座に伝わってきた」とあるが、どうしてこの重大さが即座に伝わってきたのか、述べてください。

--

国語 (九枚の内 その三)

受験番号

問四 傍線部C「通常の震災報道では取り上げられない立場の者」とあるが、ここではどのようなことを言うのか、説明してください。

問五 傍線部D「そうでない者も、やはり何かを喪失している」とあるが、そのような人の例としてここでは不適切であると思われるものを次の①～⑤から二つ選び、番号で答えてください。

- ① 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障がなかったが、その時現地に住んでいた親しい人を失っている。
- ② 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障をきたしていなかったし、その時現地に住んでいた親しい人は皆無事であったが、なぜだか何とも言えない寂しさを感じてしまっている。
- ③ 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障をきたしていなかったし、その時現地に住んでいた親しい人は皆無事であったが、生まれ育った街が壊れてしまい、子どもの頃のようにには戻らないとわかっている。
- ④ 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障をきたさなかったことに正直とても安心している。
- ⑤ 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障なく心身ともに満たされているからこそ、せめて離れたところから最低でも経済的な支援をしなければならぬと思っている。

問六 傍線部E「時宜を得た出版」とあるが、なぜそう言ったと言えるのか、述べてください。

国語 (九枚の内 その四)

受験番号

問七 傍線部 F 「一般読者、とくに震災を体験した方々にどう受け入れられるかは未知数」とあるが、なぜそう言えるのか、述べてください。

問八 空欄 G と空欄 H に入る言葉の組み合わせとして適切なものを次の①～⑤から一つ選び、番号で答えてください。

- ① 不安・安堵^ど ② 恐怖・解放 ③ 予測不能・達成 ④ クレーム・成就 ⑤ 苦悩・歓喜

問九 傍線部 I 「杞憂(きゆう)」の意味を説明してください。

問十 傍線部 J 「じぶんも悲しんでいたと思えた」とあるが、なぜそう思えたのか、述べてください。

問十一 傍線部 K 「深い感慨」とあるが、なぜそう感じるようになったのか。述べてください。

国語 (九枚の内 その五)

受験番号

二次の文章を読み、後の問に答えてください。

年末年始は、なぜか歌番組が多い。①ナツかしの昭和歌謡なども多く流れた。取り上げられるのはいずれも、昭和に大ヒットした曲だ。そんな番組をぼんやり眺めていてちよつと驚いた。歌えるのだ。演歌もポップスもいっしょに口ずさめる。メロディーだけでなく、あらかた歌詞まで覚えていた。

春日八郎が歌った「お富さん」という曲がある。昭和29年発売だそうだ。生まれる前の年のことだから、発売時に聴いていたはずはない。だが、「お富さん」の1番は今でも最後まで歌える。歌詞も覚えている。それくらいの大ヒットだったのだ。

なのに、去年のヒット曲など、1曲も②キオクに残っていない。音楽に興味がないわけではない。大学卒業後、③シユウシヨクしたのはレコード会社だった。

そもそも音楽の好みというのは保守的なものかもしれない。アメリカでジャズが生まれ、それがブームになったとき、保守的な人々は眉をひそめただろう。ロックが登場し、若者たちが④ネツキヨウした時代も、大人たちは顔をしかめた。

流行りはやの音楽は変化していく。それは当然のことで、文化的にはそうでなくてはいけないと思う。感性が柔軟な若者たちはそれを楽しむだろう。だが、我々老人はその変化に戸惑うのだ。

一方で、1980年代の日本ポップスが海外で人気になり逆輸入されるような現象もあるようだ。カラオケで、若い人たちがさかんに懐かしい歌を歌っている。曲の好き嫌いには新旧など関係ないようだ。あまり興味の湧かない⑤サツコンの楽曲も、突然好きになる日がやってくるかもしれない。

(今野敬「懐かしい歌」あすへの話題 日本経済新聞 2026年1月16日)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改め、解答欄に記してください。

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

問二 次の①～⑨について、本文の内容に即している場合には○を、そうでなければ×を、それぞれ解答欄に記してください。

- ① 昭和歌謡は、国民的に大ヒットした曲がたくさんあり、当時聴いていた人たちは誰でもいつでも歌える。
- ② 昭和歌謡や80年代日本のポップスは、メロディーラインや歌詞が綺麗にできているので、覚えやすく歌いやすい。
- ③ 最近の曲は覚えにくいだが、それは昭和の頃と違って曲が複雑にできていて、歌詞も難解なものが多いからである。
- ④ 大人はいつの時代も保守的であり、新しく生まれた音楽を好まないが、これは大人にとってもつたないことだ。
- ⑤ 若い頃ロックが好きで、当時の大人にそれを否定されていた人たちが、今度は自分が大人になった時、若者の音楽の趣味が理解できず、当時の大人のように戸惑うことがある。

受験番号

国語 (九枚の内 その六)

- ⑥ 流行の音楽は時間の流れとともに変化していくものであろうが、文化としてはそうあるべきである。
- ⑦ 日本の80年代ポップスは、最近海外で人気であり、多くの海外アーティストがそれらをコピーしている。
- ⑧ 流行の音楽は時間の流れとともに変化していくものであるが、一方で若い人が昔の曲を好きになることもある。
- ⑨ 年配の人の中には、今の曲の良さがさっぱりわからない人もいるが、きっとそのような人は今後とも新しい曲のことを好きになることはないだろう。

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	

三 次の文章を読み、後の問に答えてください。

先日「終つひのひと」(TBS)という連続テレビドラマの初回放映を見た。

小さな葬儀会社の経営者である主人公が、毎回さまざまな事情を持つ遺族と接する話だという。突然の家族の死にとまどったり遠縁の親族が口をはさみ混乱したり。漫画原作を映像化したようだ。

ドラマを企画したプロデューサーは元同級生の死に際し、葬儀会社の方々の仕事に「プロとしての覚悟と哲学」を見たと言語。納棺師を描いた映画「おくりびと」から18年たち、漫画やドラマに登場するまで距離が近づいた。2月には、若手人気俳優が葬儀会社の社員を演じる映画の公開も待つ。葬儀は旬の題材のようだ。

葬儀を巡る事情は大きく変わった。引退から人生の終幕までの期間がのびたことなどから小規模な式が目立つ。亡くなる方が増える冬、特に東京圏で切実なのが火葬場の混雑だ。死亡から葬儀まで1週間から10日ほど待つのは珍しくない。遺体の保管に費用がかかるうえに、遺族は中ぶらりんの気持ちで過ごすことになる。

3年前の父の葬儀もそうで、A「冷たい保冷庫で過ごす夫」を思い心が乱れる母を支えるのに苦心した。誰にも訪れる死。葬儀や墓、住まいに終末期医療と「死」への向き合い方は私たちにとって避けられないテーマになった。ドラマなどで想像力を磨きたい。政治家や政党の公約を、そんな視点から点検してみるのもいい。

国語 (九枚の内 その七)

受験番号

問一 次の①～⑨について、本文の内容に即している場合には○を、そうでなければ×を、それぞれ解答欄に記してください。

- ① 映画「おくりびと」公開以来、葬儀会社の存在がポピュラーなものとなった。
- ② 最近小規模の葬儀が増えている主な理由として、長く続く不景気が挙げられる。
- ③ 亡くなった人が亡くなってから火葬されるまでの時間は、可能な限り短くしなければならない。
- ④ 最近、亡くなった方が火葬されるまでに時間がかかるようになったので、遺された家族は、亡くなった方とお別れをする時間をゆっくり取れるようになった。
- ⑤ 「死」に向き合う、ということは、特に今を生きる我々にとって避けて通れないテーマとなった。

①
②
③
④
⑤

問二 傍線部A『冷たい保冷庫で過ぐす夫』を思い心が乱れる母』とあるが、この時母親はどのような気持ちを抱いていたと考えられるか。母親の立場に身を置いてできるだけ具体的にイメージし、述べてください。

--

四 次の文章を読み、一〇〇字前後で要約し、後の回答欄に記述してください。

小中学生の頃、新年度の最初の授業で、教科書が配られたときのワクワク感は今も忘れられない。折り目のついていないページをそつとめくり、顔に押し当ててみる。少し光沢のある紙の匂いに、心が弾んだ。

「勉強をみてやるから教科書をもっておいで」。父親にそう言われたことも、懐かしい思い出である。筆者も大人になり、同じ言葉を息子にかけた。紙の教科書は、親が子供の学習に関わるツールでもあるのだ。

だが、そんな匂いも触れ合いも、もう味わえなくなるかもしれない。

文部科学相の諮問機関である中央教育審議会の作業部会が、デジタル教科書を正式な教科書に格上げする案を了承した。

教科書の形態を①現行の紙②デジタル③紙とデジタルの組み合わせ(ハイブリッド)の3種類とし、教育委員会が選択する―という案だが、文科省がデジタル化に前のめりになっているので、紙の教科書は急速に廃れていくだろう。

国語 (九枚の内 その九)

受験番号

五 次の表にある漢字を使って、四字熟語を可能な限り作って回答欄に記してください。ただし使える漢字は1マスにつき1回ずつです。

念	朝	燃	弱	一
固	鳥	一	長	文
電	二	四	全	夕
完	強	定	三	寒
焼	肉	食	束	観

回答欄

--

国語 (九枚の内 その一)

受験番号

一 次の文章を読み、後の問に答えてください。

出題意図 喪失体験をした作者の気持ちを共感的に読み取る能力を見る。文面から想像される、言葉の向こう側に存在する気持ちをいかに共感的に理解できるか、コミュニケーション能力を測る。加えて、基本的な漢字の読みの力を見る。

1月17日に執筆の番がまわってきたのも、A巡り合わせというものだろう。阪神・淡路大震災から、ちょうど31年が経(た)った。私は神戸市の出身だが、大学進学に際して上京し、震災当時はすでに東京で就職していた。当日の早朝、現地の友人からぶじを知らせる電話で起こされ、テレビに映る光景を見て呆然(ぼうぜん)としたのを今でも覚えている。横倒しになった高速道路がとくに衝撃的で、Bことの重大さが即座に伝わってきた。

実家は神戸市の中心部たる三宮から西に約1キロ、中華街にほど近い繁華街である。さいわい家族に怪我(けが)人はなかったものの、①高齢の祖父母宅は②半壊の状態だった。私は3日目に神戸入りしたが、電車は途中までしか通じておらず、ペットボトル1ダース分の水や食料を背負って十数キロを歩き、③辿り着く。できるかぎり家を片づけ、家族は三重の親類宅に身を寄せてもらうことにした。

このときの体験をもとに書いたのが、「冬と瓦礫(がれき)」という作品。ふだん歴史・時代小説を書いている私にとっては唯一の現代ものである。原型はデビュー以前に執筆していたが、それからほぼ15年のち、震災30年を目前とした時期に刊行した。

震災を扱った物語というと被災者視点で書かれたものを思い浮かべがちだが、※拙作の場合はそうした成り立ちだから、東京で暮らしていた主人公が故郷・神戸の被災を聞いて駆けつけ、さまざまな現実^cに直面する。変容した故郷への哀惜だけでなく、地元でそれを体験した人々との分断も生じてしまうのである。いわば、c通常の震災報道では取り上げられない立場の者を描いた。

大切なひとを亡くしたり、家を失ったりした方の悲しみはむろん大きなものだが、Dそうでない者も、やはり何かを喪失している。じぶんがそういう立場だからこそ気づいたことながら、そろそろそうしたところにも目を向けていいのではないかと思えた。この視点を提示するのに30年という歳月が必要だったように感じている。結果としてE時宜を得た出版になったのではないだろうか。

発売前から大きな④反響を得、本紙もふくめて多くの取材を受けた。それでもF一般読者、とくに震災を体験した方々にどう受け入れられるかは未知数で、Gもあつたことを告白しておく。

それが「杞憂(きゆう)」だったとまではいわないが、刊行後ほどなく、兵庫県書店商業組合に依頼され、神戸で講演をおこなった。主催者も聴衆も地元の方々だから緊張もあつたが、当日は想像以上にあたたかい空気で迎えていただき、Hしたものである。

④主催側からは、この震災を語り継いでゆくという、つよい決意を感じた。

これと前後して、読者からお手紙をいただいた。福井県⑤在住の女性で、

国語 (九枚の内 その二)

受験番号

「能登地震で実家は半壊になったものの父母はぶじ、もっとひどい状態の方がおられるので、気持ちをあらわすことができなかつたが、『冬と瓦礫』を読んで、「じぶんも悲しんでいいのだと思えた」というようなことが記されていた。

この手紙を受け取った私のほうにこそ深い感慨があつたことは想像していただけるだろう。ここに、はっきり届いた相手がいると思えた。ためらいもあつたが、作品を世に出してよかつたと心の底から感じたのである。

※拙作 「自分の作品」をへりくだって言う語

(砂原浩太朗 「31年目の震災」 日本経済新聞 電子版 2026年1月17日)

問一 傍線部①～⑤の漢字の読みを記してください。

①	こうれい
②	はんかい
③	はんきょう
④	しゅさい
⑤	ざいじゅう

問二 傍線部A「巡り合わせ」とあるが、作者にとってどのような巡り合わせであつたのか、述べてください。

発災当時は東京在住であつたが、神戸出身である作者が、阪神・淡路大震災の際に被災地支援をする中で様々な体験をして、それを元にした『冬と瓦礫』が発災後約30年経って刊行され、その後31年目のまさに1月17日、この原稿執筆の順番が丁度回ってきた、という巡り合わせ。

問三 傍線部B「この重大さが即座に伝わってきた」とあるが、どうしてこの重大さが即座に伝わってきたのか、述べてください。

被災地の高速道路が横倒しになった衝撃的な映像をテレビで見たから。

国語 (九枚の内 その三)

受験番号

問四 傍線部C「通常の震災報道では取り上げられない立場の者」とあるが、ここではどのような人のことを言うのか、説明してください。

神戸出身であるが震災特別の街に住んでいて、自分自身は被災を免れたが、地元を思っただけでなく、故郷で震災を直接体験した人々との関係性が悪化してしまうという経験もした、といった立場の人。

問五 傍線部D「そうでない者も、やはり何かを喪失している」とあるが、そのような人の例としてここでは不適切であると思われるものを次の①～⑤から二つ選び、番号で答えてください。

- ① 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障がなかったが、その時現地に住んでいた親しい人を失っている。
- ② 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障をきたしていなかったし、その時現地に住んでいた親しい人は皆無事であったが、なぜか何とも言えない寂しさを感じてしまっている。
- ③ 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障をきたしていなかったし、その時現地に住んでいた親しい人は皆無事であったが、生まれ育った街が壊れてしまい、子どもの頃のようにには戻らないとわかっている。
- ④ 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障をきたさなかったことに正直とても安心している。
- ⑤ 震災当時、自分自身は故郷である被災地から遠く離れたところに住み、生活に全く支障なく心身ともに満たされているからこそ、せめて離れたところから最低でも経済的な支援をしなければならぬと思っっている。

④
⑤

問六 傍線部E「時宜を得た出版」とあるが、なぜそう言ったと言えるのか、述べてください。

神戸出身ではあるが直接被災しておらず、地元の家族も助かったが、それでも喪失感を感じた人間、という立場であるからこそその気づきがあった。そしてそのことに目を向けられるようになりそれを読者に提示できるようなるまでに、30年は必要であると思っただけで、そしてまさに震災から30年が経ったから。まさに作者が「自分だけではなかった」

国語 (九枚の内 その四)

受験番号

問七 傍線部F「一般読者、とくに震災を体験した方々にどう受け入れられるかは未知数」とあるが、なぜそう言えると思われるのか、述べてください。

神戸出身だが直接被災してしていない作者の体験談で、しかも被災者たちとのネガティブな体験も含まれているような作品はそれまで前例がなかったので、本当に被災した人たちが読んだら否定的な感情を抱く可能性があると思われるから。
(実体験もしたことないのに何がわかるんだ、と非難されるかもしれない)

問八 空欄Gと空欄Hに入る言葉の組み合わせとして適切なものを次の①～⑤から一つ選び、番号で答えてください。
① 不安・安堵^ど ② 恐怖・解放 ③ 予測不能・達成 ④ クレーム・成就 ⑤ 苦悩・歓喜

①

問九 傍線部I「杞憂(きゆう)」の意味を説明してください。

必要のないことをあれこれ心配すること。無用の心配。とりこし苦勞。(精選版 日本国語大辞典)

問十 傍線部J「じぶんも悲しんでいいのだと思えた」とあるが、なぜそう思えたのか、想像して述べてください。

自分よりもひどい状態の人がいると思うと、自分程度の経験では悲しむ資格はない、悲しんだらその人たちに申し訳ない、その人たちが嫌な思いをするかもしれない、となってしまう。悲しむことができなかった。しかし『冬と瓦礫』を読んで、作者が自分と同様の立場にもかかわらず、ちゃんと喪失感を体験していることを知り、「ああ、自分と同じような人がこれほど悲しんでいる。自分も悲しんでいいんだ」と思えるようになったから。

問十一 傍線部K「深い感慨」とあるが、なぜそう感じるようになったのか。述べてください。

神戸出身であるが直接被災していない作者が、それでも喪失感を感じていた。しかも地元の人との軋轢もありながら。このようなことは、そうあることではない、もしかしたらこんな経験をしているのは自分だけかもしれない、しかし誰かに伝えたい、今がその時期だ、という思いで作品を仕上げた。そして自身と同様の経験をした読者の心に響いたことがわかった。喪失感を感じていたのは作者だけではなかったことがわかった。上述のような理由による。

国語 (九枚の内 その五)

出題意図 文章を流し読みせず、慎重に正確に読み取れる力があるか否かを見る。加えて、基本的な漢字の書き取り能力を測る。

受験番号

二次の文章を読み、後の問に答えてください。

年末年始は、なぜか歌番組が多い。①ナツカシの昭和歌謡なども多く流れた。取り上げられるのはいずれも、昭和に大ヒットした曲だ。そんな番組をぼんやり眺めていてちよつと驚いた。歌えるのだ。演歌もポップスもいっしょに口ずさめる。メロディーだけでなく、あらかた歌詞まで覚えていた。

春日八郎が歌った「お富さん」という曲がある。昭和29年発売だそうだ。生まれる前の年のことだから、発売時に聴いていたはずはない。だが、「お富さん」の1番は今でも最後まで歌える。歌詞も覚えている。それくらいの大ヒットだったのだ。

なのに、去年のヒット曲など、1曲も②キオクに残っていない。音楽に興味がないわけではない。大学卒業後、③シュウシヨクしたのはレコード会社だった。

そもそも音楽の好みというのは保守的なものかもしれない。アメリカでジャズが生まれ、それがブームになったとき、保守的な人々は眉をひそめただろう。ロックが登場し、若者たちが④ネツキヨウした時代も、大人たちは顔をしかめた。

流行りはやの音楽は変化していく。それは当然のことで、文化的にはそうでなくてはいけないと思う。感性が柔軟な若者たちはそれを樂しむだろう。だが、我々老人はその変化に戸惑うのだ。

一方で、1980年代の日本ポップスが海外で人気になり逆輸入されるような現象もあるようだ。カラオケで、若い人たちがさかんに懐かしい歌を歌っている。曲の好き嫌いには新旧など関係ないようだ。あまり興味の湧かない⑤サツコンの楽曲も、突然好きになる日がやってくるかもしれない。

(今野敬「懐かしい歌」あすへの話題 日本経済新聞 2026年1月16日)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改め、解答欄に記してください。

①	懐
②	記憶
③	就職
④	熱狂
⑤	昨今

問二 次の①～⑨について、本文の内容に即している場合には○を、そうでなければ×を、それぞれ解答欄に記してください。

- ① 昭和歌謡は、国民的に大ヒットした曲がたくさんあり、当時聴いていた人たちは誰でもいつでも歌える。
- ② 昭和歌謡や80年代日本のポップスは、メロディーラインや歌詞が綺麗にできているので、覚えやすく歌いやすい。
- ③ 最近の曲は覚えにくいのが、それは昭和の頃と違って曲が複雑にできていて、歌詞も難解なものが多いからである。
- ④ 大人はいつの時代も保守的であり、新しく生まれた音楽を好まないが、これは大人にとってもつたないことだ。
- ⑤ 若い頃ロックが好きで、当時の大人にそれを否定されていた人たちが、今度は自分が大人になった時、若者の音楽の趣味が理解できず、当時の大人のように戸惑うことがある。

受験番号

国語 (九枚の内 その六)

- ⑥ 流行の音楽は時間の流れとともに変化していくものであろうが、文化としてはそうあるべきである。
- ⑦ 日本の80年代ポップスは、最近海外で人気であり、多くの海外アーティストがそれらをコピーしている。
- ⑧ 流行の音楽は時間の流れとともに変化していくものであるが、一方で若い人が昔の曲を好きになることもある。
- ⑨ 年配の人の中には、今の曲の良さがさっぱりわからない人もいるが、きっとそのような人は今後とも新しい曲のことを好きになることはないだろう。

①	×	②	×	③	×	④	×	⑤	○	⑥	○	⑦	×	⑧	○	⑨	×
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三 次の文章を読み、後の問に答えてください。

先日「終ついのひと」(TBS)という連続テレビドラマの初回放映を見た。

小さな葬儀会社の経営者である主人公が、毎回さまざまな事情を持つ遺族と接する話だという。突然の家族の死にとまどったり遠縁の親族が口をはさみ混乱したり。漫画原作を映像化したそうだ。

ドラマを企画したプロデューサーは元同級生の死に際し、葬儀会社の方々の仕事に「プロとしての覚悟と哲学」を見たと言った。納棺師を描いた映画「おくりびと」から18年たち、漫画やドラマに登場するまで距離が近づいた。2月には、若手人気俳優が葬儀会社の社員を演じる映画の公開も待つ。葬儀は旬の題材のようだ。

葬儀を巡る事情は大きく変わった。引退から人生の終幕までの期間がのびたことなどから小規模な式が目立つ。亡くなる方が増える冬、特に東京圏で切実なのが火葬場の混雑だ。死亡から葬儀まで1週間から10日ほど待つのは珍しくない。遺体の保管に費用がかかるうえに、遺族は中ぶらりんの気持ちで過ごすことになる。

3年前の父の葬儀もそうで、A「冷たい保冷庫で過ごす夫」を思い心が乱れる母を支えるのに苦心した。誰にも訪れる死。葬儀や墓、住まいに終末期医療と「死」への向き合い方は私たちにとって避けられないテーマになった。ドラマなどで想像力を磨きたい。政治家や政党の公約を、そんな視点から点検してみるのもいい。

出題意図 文章を流し読みせず、慎重に正確に読み取れる力があるか否かを見る。加えて、人生における大事な場面で辛い体験をしている人の気持ちを共感する能力を測る。

国語 (九枚の内 その七)

受験番号

問一 次の①～⑨について、本文の内容に即している場合には○を、そうでなければ×を、それぞれ解答欄に記してください。

- ① 映画「おくりびと」公開以来、葬儀会社の存在がポピュラーなものとなった。
- ② 最近小規模の葬儀が増えている主な理由として、長く続く不景気が挙げられる。
- ③ 亡くなった人が亡くなってから火葬されるまでの時間は、可能な限り短くしなければならない。
- ④ 最近、亡くなった方が火葬されるまでに時間がかかるようになったので、遺された家族は、亡くなった方とお別れをする時間をゆっくり取れるようになった。
- ⑤ 「死」に向き合う、ということは、特に今を生きる我々にとって避けて通れないテーマとなった。

①	○
②	×
③	×
④	×
⑤	○

問二 傍線部A『冷たい保冷庫で過こす夫』を思い心が乱れる母』とあるが、この時母親はどのような気持ちを抱いていたと考えられるか。母親の立場に身を置いてできるだけ具体的にイメージし、述べてください。

長年連れ添ったかけがえのない人を、冷たい保冷庫の中でひとりぼっちにさせている、きっと寂しがつているだろう、寒いだろう、「お父さんがかわいそう」、自分には何もしてやれない、もどかしい、一緒にいてあげたい、でもできない、早く火葬してあげて天国に送ってあげて落ち着かせてやりたい、でも自分は無力だ…

四 次の文章を読み、一〇〇字前後で要約し、後の回答欄に記述してください。

出題意図 文章の大意を短時間で把握し要約する能力をみる。

小中学生の頃、新年度の最初の授業で、教科書が配られたときのワクワク感は今も忘れられない。折り目のついていないページをそつとめくり、顔に押し当ててみる。少し光沢のある紙の匂いに、心が弾んだ。

「勉強をみてやるから教科書をもっておいで」。父親にそう言われたことも、懐かしい思い出である。筆者も大人になり、同じ言葉を息子にかけた。紙の教科書は、親が子供の学習に関わるツールでもあるのだ。

だが、そんな匂いも触れ合いも、もう味わえなくなるかもしれない。

文部科学相の諮問機関である中央教育審議会の作業部会が、デジタル教科書を正式な教科書に格上げする案を了承した。

教科書の形態を①現行の紙②デジタル③紙とデジタルの組み合わせ(ハイブリッド)の3種類とし、教育委員会が選択する―という案だが、文科省がデジタル化に前のめりになっているので、紙の教科書は急速に廃れていくだろう。

国語 (九枚の内 その九)

受験番号

五 次の表にある漢字を使って、四字熟語を可能な限り作って回答欄に記してください。ただし使える漢字は1マスにつき1回ずつです。

念	朝	燃	弱	一
固	鳥	一	長	文
電	二	四	全	夕
完	強	定	三	寒
焼	肉	食	束	観

一朝一夕	二束三文
弱肉強食	完全燃焼
固定観念	

出題意図 四字熟語に関する知識量を見る。